



策

論

全

特別  
カ5  
5488





15  
5488

小島

策論

英國士官ストウ著



横濱港ニアル軍艦ノ旭丸ノ旗ヲ立ツハ外國  
商人共ノ常ニ見ル也而四五日以前ヨリ中  
播ノ上ニ獨立大名ノ旗号ヲ見テハ意少シク  
激セサル能ハサル也薩州ノ船一艘數ヶ月以  
前箱館ヲ發シ日本西北海ニテ佐渡隱岐二嶋  
邊ヲ測量シ夫ヨリ當港工來著シ其艦長條約



面第十四ヶ条ノ規定通り積來リ日本産物ヲ  
外國商人工賣拂事ヲ願ヘリ然ルニ當港官吏  
共船長及水夫等ノ上陸及賣拂等一切許容セ  
ス此時外國商人共當港ノ官吏我々ニ商賣ヲ  
妨害セル事ヲ我有司訴出ル氏有司取合難シ  
何ントナレハ青表紙ニ載ル如ク開港初年以  
來帶刀人共外國人共ヲ視ル仇敵ノ如クニ乱  
妨セラレシニ我有司ヨリ  
大君政府ヲ

シテ諸侯ノ家來ハ一切此地ニ入レサレム  
ル也

青表紙トハ日本ニ不限都テ外國へ出勤ノ  
有司ヨリ年々一度本國政府工奏聞セシ事  
ヲ其政府ヨリ印行シ出セシモノ也

是故ニ今我有司ヨリ諸侯ノ家來ト賣買致シ  
度ハ言難シ且我有司カ我々商賣ヲ妨害スト  
言テコレヲ罪スル事得ヘカラス是固ヨリ我



我ノ為メニ患難ナキヨウニ謀ルニヨレハナ  
リ大君ハ日本一統ノ君主タルヨウニ最初條  
約ノ節ニ云レナレ氏彼ハ只諸侯ノ長ニテ僅  
ニ日本半國ホト而已領ルカナルニ自ラ日本  
國主ト唱ヘシ是名分不正ニシテ僭偽ナク數  
多ノ國郡ヲ領シタル獨立ノ諸侯共開港ヲ好  
ムサルニ非レ氏彼等ニ一切評議セス彼共今  
其條約ヲ兼諾セサルハ恠シムニ足ラサルナ

リ是ニ由テ諸侯ハ大君及外國人工對シ自然  
ニ何カ仇セント思フニ至ル諸侯ノ家來ハ一  
切此地ニ入レサル也然ルニ諸侯共稍々外國  
交易ヲ致サント武器買入ヲ始ム常ニ政府官  
吏ノ立合ニテ賣買ヲ為ス且武器ヲ買フ而已  
ナラス自分領内ノ產物ホヲ賣ント欲シ且武  
器ノ償金ト交易セント欲ニ到リシナリ此官  
吏立合ハ監司ヲ付ル如キ者ニシテ其煩ク面



倒ナルモノ也然ルニ条約面第十四ニアル通  
リ武器ハ大君政府ノ之買入レル規定ナレハ  
此官吏ヲシテ監セシムル丁宜ナリ且最初諸  
侯ノ家來ヲ此地工入サルヨウニ頼ミシハ我  
國人故ニ今度薩摩艦ノ一件ヲ咎ムル丁能ハ  
ス今諸侯共ト我大商人ト取組常商人ノ商賣  
ヲ出來スヨウニシテ買スル丁論ヲ侍ス然ル  
ニ彼等ノ交易ヲスル丁ナラヌ又双方商賣ノ出

來候ヨフニ配慮スヘシ只今ニテ仇敵ノ如ク  
ナリシ大名共稍々外國ノ交易ヲ好ミ且自分  
領内ノ港ヲ港ヲ開キタキト思フ丁明ニ見ユ  
ル也然ラハ彼等ノ港ヲ開トモ二十家ニ近キ  
獨立諸侯ノ領内ニ盡クニ及ハス只一二ノ最  
交易ニ便ナル場所ヲ見立開カハ足レリ然レ  
日本諸侯一致セシテ只獨大君ト而已条約  
ヲ維持セント欲スル氏決テ能ハサル也今諸



英論  
第廿四  
諸侯共ハ大君ノ令ヲ遵奉セス又交易ノ利潤ヲ  
モ得只條約ハ大君ト結シ其條約ヲ妨クル  
決シテ相成ラヌト云テ手ヲ束テ傍觀シ居ル  
ヨウニ見エタリ願ハ我等赤心ヲ以テ改革ヲ  
ヲ評議セン其故ハ我々只條約ヲ一箇ノ諸侯  
ト結フ丁ヲ好マス日本全國ノ償金ヲ謀リ度  
モノ也今我レ大君ハ日本ノ君主ト言シ偽ヲ  
知レリ其故ハ外ニモ彼ト權勢ノ同キ者數多

アルヲ以テ也然ハ只今ノ條約ニ新ニ諸侯ト  
條約ヲ加フルカ或ハ條約改革セン左ラハ只  
諸侯共喜フ而已ナラス又交易ノ利潤ヲ得ル  
ニ由テ大君ノ譜代諸侯ニ至ル迄困究セシ苦  
ヲ免ルヘシ我々已ニ大君ト條約ヲ結ヒタレ  
ハ今此ニ改革ニ及フトモ強チニ日本ノ君主  
タルヨフニ偽リシ大君ヲ廢スルト言氏國家  
ノ顛覆ニハ至ラサルナリ其故ハ近來大君ノ



所業ヲ以テ見レハ天子ノ勅許ヲ得スレテ諸  
族モ兼諾セス条約ヲ取行フ了能ハサルハ明  
白ナリ是ヲ以テ海外人ハ天子ハ日本ノ君主  
ト思フ了理ナキニアラス然レ氏只天子ト而  
已条約ヲ結フハ利アラント思フ了不可ナリ  
又天子一人其威權ヲ專ラニ行スル能ハサル  
ハ天子ト而已ノ条約ハ又無益ナルニ疑ナシ  
兵庫開港期限今ヨリ千八百六十八年一月一

日迄ニハ諸族共ニ是迄ノ条約面ニ於テ不都  
令ニアリシ條々ヲ吟味シ又孰レノ港ヲ開ク  
ヘキヤ及我々ト日本人トノ交際ヲシテ堅固  
ニ安堵セシムヘキヲ商議スルニ其時日足ラ  
サルニ非ル也此開港ノ期限迄ニ一ツノ極ノ  
極當所置ナクテハ我々無事ニ彼港ニ居住ス  
ル了覺束ナシ我々其危急ヲ防カントナラハ  
大君同様ニ一國ノ權威ヲ專ラニスル諸族共



ト評議シテ可ナリ右事件ヲ施行スルハ獨日  
本ノ為ノミナラス我々ト日本トノ交易ヲ慥  
ニ繁昌セシムル一端ト思フニ由テ此段已ニ  
日本トノ條約濟ノ各國公使ニ告知ラセシム  
ル者ナリ我等是ニテノ條約ヲ取除キ今度新  
ニ日本諸侯一致シタル條約ヲ取結フヘキ丁  
四五年以前新聞紙ニ出板セシコトク同意ノ  
者モ少カラス我等歡喜ニ堪サル也此議論ノ

發端ハ此事ヲ引續キ取行フヘキ才カノアル  
者ヨリ自然我々等ヲシテ此説ヲ起スヘク感  
シ成ラシメシ也其人ト云ハ外國人而已ナラ  
ス日本憂國有識ノ者也彼ホハ千八百五十  
八年アメリカ力定約以來始終是ホノ事ヲ企シ  
ト見エルナリ日本史學家ノ著述ニアルコト  
ク往古ハ大君ノ威權全ク強カリシ然シ各國  
ニ偶有シ如ク僭偽者天子ヲ弑シテ國權ヲ掌



握セシ如キニハ非ルナリ王權ノ衰微セシハ  
藤原氏ヨリ始レリ此藤原氏ハ數年ノ間常ニ  
已レカ女子ヲ天子ノ皇后ニ納レ已カ外子外  
孫ノニ天子ノ位ニ即ケ已威權ヲ極メ私利ヲ  
營シシモノ也終ニ政柄尽ク彼ノ掌中ニ委任  
シ天子ハ只歌詠絲竹其他ノ游樂而已ニ日夜  
ヲ送レリ藤原氏ノ勢道長頼道ニ至リ尤盛ナ  
リシ後三条帝王權ヲ匡復セント欲セシ处在

位僅ニシテ崩御セリ即千西洋千六十九年ヨ  
リ七十二年頃也其後源頼朝平氏ヲ亡シ霸業  
ヲ創立セリ是武家國權ヲ取シ始ナリ當時ノ  
徳川氏ヲシテ頼朝ノ如ク權威アラシメハ我  
我又彼ト条約ヲ結フニ足シリ然シ假令我々  
此僭偽者ヲ威權ヲ持續ク間ハ交接スヘキモ  
若彼ト肩ヲ比ヘ抗抵スルモノ起ルトキハ我  
ヲイカンカ處スヘキヤ知ラス長崎ノミニ客



居メ日本國體ヲ詳知ラサリシケシ蘭日人  
 本ノ事跡ヲ筆記セルモノニ日本ニハ二王ア  
 リト云ヒ來シリ其一人ハ國家ヲ支配スル天  
 子他ノ一人ハ教主ノ如キモノニメ國家ノ政  
 事ニ關係セサル天子ナリト言然ルニ外國和  
 親通商ヲ願ヒ時是尤重大ノ事件ニテ帝モ諸  
 侯モ評論シ諸侯モ帝ノ意ニ隨フヘクアリシ  
 処大君ノ外國ヨリ反答ヲ催サレ止事得ス已

レ一箇ノ子簡ヲ以テ條約書ニ調印セリ是城  
 門ヲ開キテ敵ヲ入レメシカ如シ外國人ハ此  
 條約ニ永續スヘキ君主ト和親ヲ結ヒシト信  
 用シテ交易ヲ始メシ也以來我々天幸ニテ安  
 逸ニ起卧スルヲ得タリ大君天子ノ命ヲ以  
 上洛セシメラレシヨリ其威權大挫ケリ是天  
 子へ數年ノ間恭敬ヲ盡サス已ニ要政ヲ行フ  
 報ト知ルヘシ又彼ノ大君威權彼ノ親戚ヨリ



輕蔑シ來レリ大金ヲ費シ人カヲ尽シテ一ツ  
ノ叛者ヲオハ云ルヲ制スル丁能ハス僅ニ已レト睦  
シキ大名ノ手ヲ仮リ平クル丁ヲ得タリ長州  
ニ付テハ一ケ年已來叛者ノ首級ヲ持飯ルヘ  
レト高ラカニ罵テ江戸ヨリ軍勢ヲ差出セリ  
大君ノ所置中途ニ於テ京師ニ於テ妨ラレシ  
モ非ス無拠第一ノ官人ヲ長州工遣ハシ只虛  
名ニテ從服セシメ和睦セント謀リシハ尤大

君ノ大ナル耻辱ニ非ヤ今誰ニテモ大君ハ日  
本ノ主宰ト云者ハアラサルナリ已レニ服從  
スヘキ者ニ制御スル丁能ハサル寸ハ彼等ニ  
及外國人共最早大君ヲ日本ノ宰ト敬憚スル  
モノ非ルナリ外國政府ニ於テ大君ト条約ヲ  
結ヒシハ大ナル誤ナル丁四ケ年以前發起セ  
レ事件ヲ以テシルヘシ千八百六十三年九月  
ノ切害ハ現在大君政府ニ知ナカラ彼等主人



ノ威カヲ以テ刑罰スルヲ免レリ故ニ此条約  
ハ國家ヲ制御スルヲ能ハサル者ト結ヒシト  
言フ鹿兒島一舉ハ彼レ我々ニ向ヒ妄動スル  
罪ヲ伐ン為稍干戈ヲ動カセシナリ此頃ヨリ  
諸族ハ各已レカ領分ヲ獨立ニ支配シ已レノ  
志意ニ任セ舉動スルヲ明ナリ我等長州ト和  
睦ヲ結ヒシ寸其全權士官ヨリ大君攘夷令兼  
遣セシ慥ナル證據ヲ差出サシム上ハ我々江

戸官吏ヲ詰問スル好キ機會ナリ此時本國ノ  
公使シヤトルアル口ツクラ呼歸サハ我々ノ  
論スル条約ヲ編ム我人民ト日本人民ノ堅固  
ナル基礎ノ上ニ休マシメンニ惜ムヘキ事ニ  
アラスヤ我々此事件ヲ行フハ未タ好機會ニ  
イタラズルニ我貴キ使節ノカヲ以テ直チ  
ニトゲ得ルヲ疑ナシ又我々ノ論スル説ノ如  
ク我々日本人民ト交易ヲ盛ニヒラクルヲ



待願フナリ我等近來大君トムスレシ條約  
ヲ廢シ新ニ 帝ニ及一致シタル諸侯ト  
取結フヘキヲ論シ來レリルレ氏今迄其大略  
ヲ著演セリ今又爰ニ辨明スヘシ此說話ハ舊  
法ヲ改革セル尤交易ナラサル非常過激ノ論  
也故ニ此事ヲ好ムモノヲシテ我興起スル所  
ノ範圍ニ入ラシムルナリ緊要ナリ今迄說來リ  
シ形勢其他新タニ論セントスル者ハ僅尺寸

ノ紙ニ上セ難シ今度我々ノ主意ハ以前ヨリ  
猶委シク説明シテ大君ノ條約書ニ調印セシ  
ナリ全理ニ背キ且彼我條約ヲ持守スルニ不  
可堪事及條約交易規則等全備ラサルナリ明  
白ニ顯シテ我々今論スルナリ理ナキニ非ルヲ  
示サンカ為ナリ日本政事一及文學ノ外國ノ  
書生共日本ニ大君ノ名ハニツナシ其名ヲ持  
得ルモノハ只 帝一人ノミト思フ我々



ヲ咎ムヘキカモシラス「シヤウクン」ト云語ハ  
英吉利語ニテ譯スルモカタカラサルニ將軍  
ハ外國有司共ト結ヒシ條約ニ已ノ本官ヨリ  
尊貴ナル大君ノ號ヲ以テ調印セリカレ此名  
ヲ稱スルヲ決メ其理ニアラス畢竟此條約ヲ  
持守シテハ西洋各國ノ成立スルヲ證セリ江  
戸ノ君主此名ヲ調印セラレシハ莫大ナル僭  
偽ニシテ見ルセノ愚弄メ信セサルヲ知ルヘ

シ外國有司共何卒此圖ト和親スヘキヲ願ヒ  
將軍ヲ真ニ大執權家ト全信セシナリルレト  
モ是ヲ以テ外國有司共ニ罪ヲ歸スルヲ得ヘ  
カラス畢竟カ天子ト僭シ尊貴ナル号ヲ專稱  
スルヲ知ラスシテ彼ニ欺カレシヲ唯深ク自  
ラ悔ルノニ此事實ハ將軍真ノ國君タルヤウ  
ニ僭偽シ居レ凡外國有司共ニ於テハ終始相  
替ラサルナリ則「ロ」ト「エ」ルケンノ條約筆記



ヲ以テ知ルヘシエルケン開港ノ初我ニ  
使節トシテ來ル者今我ニ  
ク様ノ事實ヲ持ル居テ以テ条約改革ノ了ヲ  
我々ノ公使ニ責ルヘシ下關ノ事ノ時將軍ノ  
偽作ヲ論スヘキ好機會ナリト雖氏其事ヲ果  
サスアリキ我々ノ有司ニ処ス其事ノ證跡ヲ  
示スヘシ又此一事ヲ中途ニ廢スヘカラス  
此等ノ大名カ全國ノ天子ト而已稱ス  
ヘキ陛下ノ尊号ヲ稱スルニ至テハ我々理ヲ

以テ論セサルヲ得ス「ロートエルク」筆記ニ  
因テ見ヘシ若德川陛下タルトキハ  
帝ハ如何ナル者ソヤ是 帝ハ則日本弟  
一等ノ教主ナルカ而テ此 帝ノ是迄免  
サマリニ条約ヲ去年終ニ 勅許ヲ得ラ  
レシハ是又我公使ノ成功ト云ヘシ將軍ハ日  
本人ヨリ常ニ殿下ト呼レシニ彼ニ自ラ殿下  
ヨリ上ノ称号呼用ユル了決シテ不當ナリ今



英  
蘭  
語  
二  
國  
ノ  
臣  
民  
ヲ  
シ  
テ  
永  
ク  
天  
子  
タ  
ル  
ト  
顯  
然  
タ  
リ  
假  
令  
大  
君  
ノ  
名  
目  
ハ  
八  
條  
約  
書  
ニ  
載  
セ  
シ  
ト  
云  
氏  
日  
本  
語  
ニ  
テ  
日  
本  
人  
常  
ニ  
彼  
ノ  
國  
又  
ハ  
彼  
ノ  
領  
分  
ト  
呼  
來  
レ  
リ  
此  
意  
條  
約  
書  
中  
之  
意  
ト  
大  
ニ  
相  
違  
セ  
リ  
今  
文  
章  
中  
ノ  
誤  
ヲ  
改  
ム  
ル  
ト  
左  
ノ  
如  
シ  
大  
貌  
太  
尼  
亞  
意  
爾  
蘭  
土  
帝  
陛  
下  
將  
軍  
殿  
下  
雙  
方  
領  
分  
ノ  
臣  
ヲ

メ和親スヘキヲ希ツト言ニ是日本一統ノ  
天子ハ條約ヲ結ヒシニ非ス只江戸關八  
州并諸郡大日本ニテ區々タル一方ノ地ヲ領  
シタル君主トナリ抑仙臺薩摩及他ノ大諸侯  
ト称スルモノハ其如何ナル説ヲ立ヘキヤ我  
未タ知ラサル也我等今又條約面ヲ詰難ス弟  
四條ニ言ニ日本大君陛下領分ニアル貌利太  
厄亞臣民中ニテ身上又ハ持場ニ付萬事出來



スルヲハ尽ク「ブリタニヤ」有司裁斷スヘシ此  
条大君述來ル通尤好シルシ允他ノ領分ナル  
寸ハ如何セン譬ハ或ハ「ブリタニヤ」人民尾張  
領ニ行キ尾張侯ノ為ニ斬首セラレ或ハ「ブリ  
タニヤ」水夫不幸ニ肥前ノ海岸ニ破船シ肥  
前領ニ漂流セシ寸肥前侯ノ為ニ無残ナル死  
ニ所セラレ彼等ノ骸體ヲ西洋奇物トシテ宝  
庫ニ納メラル、等ノ出來セシ寸ノ所置行ヒ

カタシ第五條ニ云ニ日本人「ブリタニヤ」ニ對  
シ惡事ヲナス者ハ日本官吏召捕日本ノ法ニ  
從テ罪ヘシ双方偏頗ナク公平ノ裁許フルヘ  
シ其以來日本人「ブリタニヤ」人民ニ對シ咎人  
出來セシ寸此ケ条ヲ以テ罪ニ行フ「ヲ」論セ  
リ然レ氏諸侯ノ家來ニ向テ此ケ条ハ死物ト  
メ實ニ行レシ「ヲ」ナシ則薩摩長州ノ「ヲ」ニ就テ  
知ルヘシ第六ケ条ニ云「ブリタニヤ」臣民日本



人ニ對シ訟フヘキ一アラハ「コンシユル」ニ出  
 其趣意ヲ告ヘシ「コンシユル」論議ノ上双方遺  
 憾ナキ様所置スヘシ又日本人「フリタニヤ人  
 ニ對シ訟フヘキ一アラハ是又「コンシユル」シ  
 ガタキ一アラハ日本官吏立合俱ニ其事ヲ吟  
 味シ當然ノ裁断ヲナスヘシ此条立合裁許ノ  
 一正シク規定ヲ立施行スル寸、尤好キ法ト  
 リ此条ニ付テ書記スル丁多シ然レ氏此条属

行レサル通り尤大切ナルケ条ト云リ知ルヘ  
 シ我カ「コンシユル」内外人民双方遺憾ナキヤ  
 ウ所置スヘシ又ハ日本官吏ヲ呼ビ其詮議ス  
 ヘキ処訴訟人ヲ運上処ヘツカハシ日本官吏  
 ニ任セシニ日本官吏其理曲直ヲ正シテ公平  
 ノ裁断セシ一未嘗有也第七ケ条通借人返濟  
 ノ急リヲ防ク一氣毒也日本ノ國人ニ借財  
 テ償カハルモノ多シ  
 第八ケ条「フリタニヤ人」日本ノ雇ヒ當然



ノ用ニ充ル丁日本政府ヨリ妨ナカルヘシコ  
ノ条ニ付屬應接アリ且時々日々此丁アリ江  
戸執政ヨリコノ条約ヲ破リシニテ則僭偽ヲ  
含ミシ丁シルヘシ第十二ヶ条難破船ノ水吏  
ヲ額ニ扶助シトリ扱フ丁只將軍ノ領分ノミ  
ニメ他侯領ノ海岸ニテハ一向扶助セスト云  
丁江戸官吏兼知シ居ルナリ如何トナレハ江  
戸官吏トモ先年外國有司共ヘ書寫ヲ以テ難

破船ハ只要用ノ寸而已開港近港ニ才イテ其  
事アルヘシト通達シ英國士免ノ十四ヶ条交  
易ノ為ニ開タル各港ニ才イテフリタニヤ人  
民何品ニテモ商賣ノ品ヲ輸入シ又輸出スル  
丁自由タルヘシ且ケヤウナル買賣ノ拂方等  
ノ節ハ一切日本官吏立合ナカルヘシ此条交  
易規定ニ於テ尤大切ナル部也開港以來常ニ  
此条破レ來レリ此外條約ノ破レシ廉少ナカ



ラス此死物ノ条約ニヨル寸ハ我々ノ交易ハ  
 跛者ノコトシ我日本民交易淹滞メ又彼ホノ  
 懇親ナル丁得ヘカラス我公使共コノ条約ヲ  
 廢シ新ニ建立スル丁尤急務ニメ諸事規則通  
 ニ行フ迄ハ我々ノ交易モ繁昌セス又日本ノ  
 富昌スル丁有ヘカラス  
 右原文  
 英國士官サトウ著述

小松屋

小松屋



土州  
 御藏板





